



県内景気

現在の景気 → 生産活動 → 個人消費 → 民間設備投資 → 住宅投資 → 公共投資 → 雇用情勢 → 3か月後の景気

凡例: 晴れ、晴れ一時曇り、曇り、曇り一時雨、雨、前月比、上昇・好転、横ばい、下降・悪化

引き続き弱含みの足踏み状態

県内景気の動向

現状 県内製造業の生産活動の現状を鉱工業生産指数でみると、原指数は4か月連続のマイナス、季節調整済指数も2か月ぶりのマイナスとなり、この結果、季調済指数の3か月移動平均値は微増にとどまり、全体に弱含みで推移している。

需要面では、大型店売上高については飲食料品がけん引しているものの、他の品目では消費増税の影響が長引いているためマイナスが続き、乗用車の新車登録台数も9か月連続かつ大幅のマイナスとなり、引き続き伸び悩んでいる。また、民間設備投資の指標である民間非居住用建築着工床面積は鉱工業用と商業用で前年を大きく下回り、全体では2か月連続の大幅マイナスとなり、新設住宅着工戸数は持家で2か月ぶりのプラスとなったものの、貸家と分譲住宅で大幅のマイナスとなったため、全体ではこれも前月に続き前年を大きく下回った。一方、公共工事は請負件数が2か月連続で前年を下回っているが、金額は5か月ぶりの大幅プラスとなった。

このような中、雇用情勢をみると、新規求人倍率は前月に比べ2か月ぶりに上昇の1.63倍の高水準、有効求人倍率も同0.03ポイント上昇の1.03倍となり、回復傾向がみられる。

これらの状況をまとめると、製造業の生産活動は一部の業種で前向きな動きが出始めているものの、在庫調整が長引き、全体に弱含みの状態が続いている。また、需要面では消費増税の悪影響が根深いため、伸び悩みの状況が続いている。したがって県内景気の現状は、全体的には引き続き弱含みの足踏み状態にあるものと考えられる。

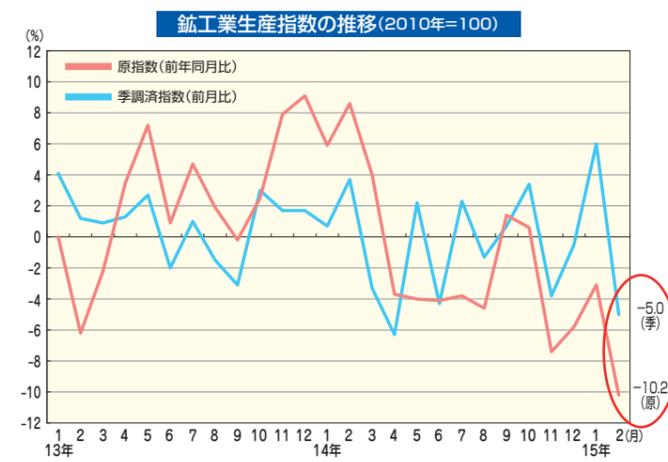
今後の動向 県内製造業の生産活動については、全国的な景気の回復基調を受けて緩やかな回復に向かうものと思われる。一方、需要面では、個人消費については食料品や日用品などの最寄り品を中心に底堅く推移するとみられるが、円安に伴う物価上昇と消費増税などのマイナス要因から消費マインドは引き続き厳しいため、耐久消費財や高級品の回復感乏しく、全体に盛り上がり欠けた展開にとどまるものとみられる。また、新設住宅着工や民間設備投資などの投資関連需要は駆け込み需要の反動減が和らぐものの、慎重さが残るため弱含みの推移になるものと思われる。

したがって今後の県内景気は、現状の足踏み状態が今しばらくは続き、消費増税1年半後の今年後半あたりから増税の影響が和らぎ、緩やかながら回復に向かうものと考えられる。

「鉱工業生産指数」は両指数ともにマイナス

2015年2月の県内製造業の生産状況をみると、鉱工業生産指数(2010年=100)の「原指数」は93.7、前年同月比-10.2%で4か月連続のマイナス、「季節調整済指数」も99.8、前月比-5.0%で、2か月ぶりのマイナスとなった。この結果、季調済指数の3か月移動平均値(1月)は101.3、前月比+0.1%と、微増にとどまった。業種別(中分類)に季調済指数の水準をみると、「パルプ・紙・紙加工品」や「繊維」「食料品」「その他」などは高水準となったが、「鉄鋼」や「金属製品」「窯業・土石製品」などの水準は低い。また、前月と比べると「電気機械」と「繊維」はわずかにプラスとなったが、他の業種はほとんどマイナスで、なかでも「輸送機械」や「窯業・土石製品」「食料品」などは大幅のマイナスとなった。

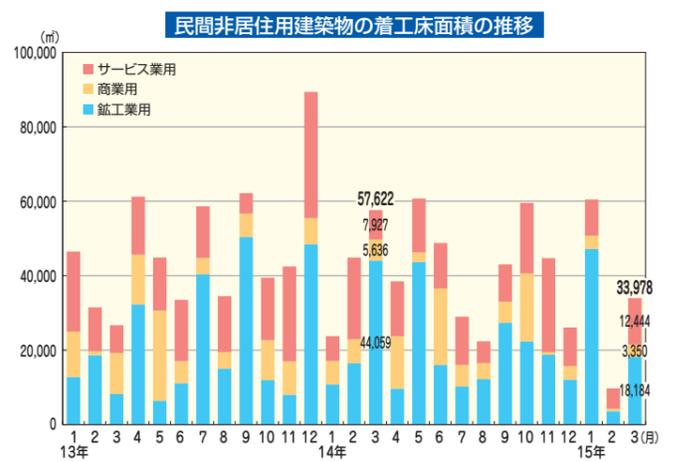
生産状況の先行きをあらわす「出荷指数」と「在庫指数(製品在庫)」を前年比でみると、出荷は5か月連続のマイナスで(原指数94.9、同月比-9.4%)、在庫は13か月連続かつ二ケタの大幅プラスとなっている(同120.2、同+11.2%)。



「民間非居住用建築着工床面積」は前月に続き大幅のマイナス

民間設備投資と関連の深い「民間非居住用建築着工床面積」(3月)は33,978㎡、前年同月比-41.0%で、前月に続き大幅のマイナスとなった。業種別にみると、「サービス業用」は2か月ぶりの大幅プラスとなったものの、「商業用」は5か月連続、「鉱工業用」も2か月連続で前年を大きく下回っている(「サービス業用」:12,444㎡、同+57.0%、「商業用」:3,350㎡、同-40.6%、「鉱工業用」:18,184㎡、同-58.7%)。

3月のトラック新車登録台数をみると、「普通トラック(1ナンバー車)」は5か月連続のプラスとなっているのに加え(190台、同+0.5%)、「小型四輪トラック(4ナンバー車)」が3か月ぶりに前年を上回ったため(306台、同+3.0%)、2車種合計では5か月連続のプラスとなっている(496台、同+2.1%)。



「新設住宅着工戸数」は2か月連続の大幅マイナス

3月の「新設住宅着工戸数」は566戸、前年同月比-15.5%で、2か月連続の大幅マイナスとなった。利用関係別でみると、「持家」は316戸、同+7.1%(大津市63戸など)で2か月ぶりのプラスとなったものの、「貸家」は156戸、同-31.3%(大津市49戸、栗東市41戸など)で前月に続き大幅のマイナス、「分譲住宅」も72戸、同-51.4%(草津市17戸、大津市16戸など)で4か月連続の大幅マイナスとなっている。分譲住宅の内訳をみると、「一戸建て」は9か月連続で前年を下回り(72戸、前年差-8戸)、「分譲マンション」も3か月連続で申請がなかった(0戸、同-68戸)。なお、「給与住宅」は22戸(湖南市21戸など)。

